

日汉对译
典藏版

荟萃经典童话，
洞悉地域特色，
匠心独运！
品味日本文化，

张凤云 李琳 编著
聂中华 审校

每天读一点日文 日本童话故事 精华选



重读童话，用别样的视角正视“长大”

独具魅力，回味悠长，沉淀文化精髓的中日双语阅读精品

在古风古韵的篇章里，在光怪陆离的文字中，找寻童年，寄托情怀
品真情，辨善恶，百转千回，令人流连



中国宇航出版社



手机扫描下载音频

日汉对译
典藏版

每天读一点日文 日本童话故事 精华选

张凤云 李琳 编著
聂中华 审校



中国宇航出版社

· 北京 ·

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

每天读一点日文：日本童话故事精华选：日汉对译
典藏版：汉日对照 / 张凤云，李琳编著. — 北京：中
国宇航出版社，2017. 11
ISBN 978-7-5159-1386-5

I. ①每… II. ①张… ②李… III. ①日语—汉语—
对照读物②童话—作品集—日本 IV. ①H369.4: I

中国版本图书馆CIP数据核字(2017)第236849号

策划编辑 李琬琪 刘莹 封面设计 百事通
责任编辑 李琬琪 责任校对 吴文哲

出版 中国宇航出版社
发行 北京市阜成路8号 邮编 100830
(010)60286808 (010)68768548
网址 www.caphbook.com
经销 新华书店
发行部 (010)60286888 (010)68371900
(010)60286887 (010)60286804(传真)
零售店 读者服务部
(010)68371105
承印 三河市君旺印务有限公司
版次 2017年11月第1版 2017年11月第1次印刷
规格 787×960 开本 1/16
印张 19.5 字数 258千字
书号 ISBN 978-7-5159-1386-5
定价 39.80元

本书如有印装质量问题，可与发行部联系调换

序言 »

童话是通过丰富的想象和夸张的手法来塑造艺术形象，反映生活，向孩子传递成人世界的世界观、生存观的一种文学载体。一般故事情节神奇曲折，内容和表现形式浅显生动，描写自然时，也会常常赋予花草树木生命，以适应孩子的接受能力。

童话实际上是某一时代社会文化的反映。它表现出孩子如何看待周围的人和事，如何看待自己生存的世界，如何区分美好和丑恶。实际上它不仅反映作者自己的世界观，也反映其生活的那个时代对孩子提出的要求。从日本早期的童话来看，当时的人们更多地注重对孩子社会性的培养和道德观念的灌输，要求孩子能尽快长大成人，承担起对社会和家庭的责任。因此，早期的童话中很少能看到反映孩子时期的幸福和美好的描述。后来随着时代的进步，提倡个性发展，尽管日本还是一个强调团体、不突出个人的社会，但童话的内涵已经发生了改变，一些反映生活美好，强调体验童年时期的幸福和美好的篇章已经出现。

童话传播了一种道德观念，表达了孩子的情感诉求。对于孩子来说，好和坏是泾渭分明的，对道德的理解是直接的。而童话中善与恶、美与丑的绝对而又直接的对立符合孩子单纯、直观的思维特点。孩子可以通过个性鲜明的童话主人公形象来理解善与恶，接受作者想通过童话传承的道德观念。同时，孩子的思维接近于一种艺术情感体验。他们不会像成人那样以理性、逻辑、经验去认识和分析自己周围的世界，而童话中出现的那种具有超越性的幻想，那种荒诞美，正好可以满足孩子的情感需求。

此外，童话对于成人世界也有极其深远的意义。成人在童话的世界中徜徉，在似曾相识的气息中找寻纯真的童年时代，寄托人文情怀。童话世界可以让成人重新审视善恶美丑，深入思考人生的哲

理。成人面对生活的艰辛和琐事的牵绊，对美好事物的感性需求也愈发强烈，在得到心灵慰藉的同时也有助于舒缓压力，沉淀内心。童话故事中夸张的写作手法、悲惨的故事结局也能警示成人，告诫他们不要触犯道德底线，做与自己的世界观相左的事情。

正是因为童话的这些特点，在 21 世纪的今天，童话仍然具有不可否认的价值。我们不仅应该创作传播正能量的童话，更应该将其他国家的优秀童话引进国门。当然，我们也要把中华民族的优秀童话介绍给世界，让童话成为连接世界的桥梁。

本书选译了 34 篇日本经典童话，类型多样，题材丰富，主题呈现了日本传统文化的主流道德理念，值得我们认真阅读。在惩恶扬善和孝敬父母的童话故事中，我们体会到友谊的力量、亲情的可贵；在险象环生的童话故事中，我们感悟到成长的艰辛、生存的经验；在纯真无邪的童话故事中，我们打扫蒙在心灵上的尘埃、守护内心的纯洁；在充满怪异要素的童话故事中，我们放飞思想、感受自由的魅力……在童话世界里，我们可以知晓生活、爱情与友情，我们可以探讨人性、善恶与成长，我们可以了解生命的价值和意义，守护精神的家园。

为了使故事生动地道，保持原汁原味，编者保留了日本方言和歌谣中的音韵等特点。此外，为引导读者阅读并迅速找到符合自己爱好的部分，本书设置了文字精练的“本章概要”；为排除阅读障碍，便于阅读，还周到地进行了词语“注释”和“语法详解”；为进一步帮助读者了解日本文化、提高阅读兴趣，编者精心挑选了故事中提及的关键词并撰写了“小知识”，以期与读者一起品味经典，拓宽视野，加深了解。

最后要感谢中国宇航出版社的编辑，没有她们的辛勤付出，就没有本书的出版，也期待本书能得到读者的喜爱，希望每一位读者都能纵享古风古韵、绚丽诡奇的童话盛宴。

第一章 报恩篇

- うなぎの恩返し.....004
 鳗鱼报恩.....005
- 浦島太郎.....008
 浦岛太郎.....009
- ねずみのもちつき.....014
 老鼠捣年糕.....015

第二章 敬孝篇

- 酒の泉.....028
 酒泉.....029
- おおみそかの火.....034
 除夕夜的火.....035
- うばすて山.....042
 弃老山.....043

第三章 复仇篇

- きつねと熊.....056
 狐狸与熊.....057
- キジムナー.....064
 吉机姆纳.....065
- かちかち山.....072
 咔嚓咔嚓山.....073

第四章 笑话篇

● くさった風.....	088
臭风.....	089
● ほらふきくらべ.....	092
比赛吹牛.....	093
● 旅学問.....	098
旅途求学.....	099

第五章 遂愿篇

● みそ買い橋.....	108
买酱桥.....	109
● 手なし娘.....	114
断臂姑娘阿杉.....	115
● 夢見小僧.....	124
灰坊太郎的梦.....	125

第六章 鬼故事篇

● 大工と鬼六.....	138
木匠和鬼六.....	139
● 桃太郎.....	146
桃太郎.....	147
● うり姫.....	156
甜瓜姑娘.....	157
● 一寸法師.....	166
一寸法师.....	167

第七章 惩恶扬善篇

●弘法さまの万年機.....	178
弘法万年机.....	179
●地藏浄土.....	184
地藏浄土.....	185
●舌切りすずめ.....	194
断舌麻雀阿春.....	195

第八章 异类通婚篇

●雪女.....	210
雪女.....	211
●つる女房.....	218
鹤妻.....	219
●食わず女房.....	226
不吃饭的老婆.....	227
●天人女房.....	236
仙妻.....	237

第九章 怪异篇

●猫の踊り.....	248
小猫跳舞.....	249
●歌い骸骨.....	254
会唱歌的骸骨.....	255
●旅人馬.....	262
变身成马的游子.....	263

●鼻高扇.....	270
鼻高扇.....	271

第十章 动植物篇

●お日さまを射そこなったもぐら.....	284
鼯鼠射日.....	285
●豆と炭とわらの旅.....	288
豆、炭、麦秆之旅.....	289
●けものと鳥の合戦.....	292
鸟兽之战.....	293
●ふるやのもり.....	298
漏雨老宅.....	299

第一章 报恩篇

本章の概要

日本文化には「恩返し」という考え方がある。恩返しは義理人情という人間的な価値を重んじる日本の伝統的な国民性の特徴の一つとされている。昔話の世界では、動物の恩返しをテーマとする動物報恩譚はその分類の一つとされ、鶴・亀・狐などの動物がよく登場する。本章は報恩物語を3つ収録する。うなぎ、かめとねずみがそれぞれ主人公として大活躍し、心優しい若者や善良なおじいさんに恩返しするといった内容で物語を展開させる。このように、動物の行動を報恩と結びつけたのは、語り手としての老人が、近世社会の道德観念を教訓として伝え、昔話を用いた結果と考えられる。

本章概要

“报恩”思想存在于日本文化中，其重视义理人情，是日本传统国民性的一大特征。而在童话故事里，动物报恩的故事是其中一类，多以仙鹤、乌龟和狐狸等动物形象出现。本章共收录了三篇动物报恩的故事。分别是身为主人公的鳗鱼、乌龟和老鼠，向帮助过他们的心地善良的年轻人和老爷爷报恩的故事。如此将动物的行为和报恩结合在一起，是讲故事的老人通过童话故事将社会道德观念等讲述出来，以劝诫世人。

うなぎの恩返し

むかし、ある年の夏のこと、土用うなぎ^①が^{たか}高く^う売れるところになったので、うなぎ取りのじょうずな男^{おとこ}が沼^{ぬま}へ行きました。その日^ひは、大きなうなぎがとれました。男^{おとこ}は、「こいつはたいした^{ぜに}銭になるぞ。」と、よろこんで、びく^②に入れて^いしょいました^③。そして沼^{ぬま}のほとりを^{ある}歩いてくると、沼^{ぬま}の中から、「けんぼう、けんぼう、いつかえってくるんだよう。」という声^{こえ}がしまし



た。すると背中^{せなか}のうなぎが、「こうなったら、いつかえるもかえらぬも、わからねえ。」と、へんじ^④返事をしました。男^{おとこ}は、うなぎが口^{くち}をきいたのでたまげました^④が、「ははあ、きっと仲間^{なかま}のうなぎが心配^{しんぱい}して、声^{こえ}をかけたんだな。かわいそうなことをした。」と思^{おも}いました。それで、「うなぎよ、おまえ^{いのち}の命^{たす}は助けてやるぞ。」とい

って、うなぎを沼^{ぬま}へはなしてやりました。うなぎは、ぎぐぎぐぐと体^{からだ}をくねらせて^⑤、うれしそうに泳いでいきました。

男^{おとこ}は家^{いえ}にかえって、おかみさん^⑥に、「大きなうなぎをとったが、沼^{ぬま}の中から、『けんぼう、けんぼう、いつかえってくるんだよう』と声^{こえ}がしてな、そしたらうなぎが、『こうなったら、いつかえるもかえらぬも、わからねえ』と返事^{へんじ}したんで、びくくりして沼^{ぬま}にかえしてやった。」と、わけを話^{はな}してきかせました。おかみさんは、「おまえさん、それはいいことをしましたよ。」といって、よろこびました。

それからというもの、ふしぎにその家^{いえ}では、なにもかも^⑦うまくいくようになりました。そして、うなぎを売^うったところではない大金^{たいきん}がはいり、まんまんと^⑧ゆたかに暮^くらしたということです。

鳗鱼报恩

很久以前，一年夏天，正值鳗鱼价格昂贵的三伏天，一个善于捉鳗鱼的男人前往池沼捉鳗鱼。那天，他捉到一条大鳗鱼。“这能卖上大价钱呢。”男人高兴极了，把它放进鱼篓。随后，他走在池沼边，听到池沼中传来一阵声音：“小健，小健，你什么时候回来啊？”接着听到身后一个声音：“我这样的话，也不知能不能回去了。”男人听到鳗鱼说话吓了一跳，心想“啊，一定是他的伙伴担心它才说话的吧。我做了一件多么对不起它们的事啊”。“小健，我放你一条生路吧。”说着，就把鳗鱼放入了池沼。鳗鱼咕叽咕叽扭动几下身体，高高兴兴地游走了。

男人回到家，跟他老婆解释道：“我今天捉到一条大鳗鱼，但听到池沼里传来‘小健，小健，你什么时候回来呀’的询问，又听见‘我这样的话，也不知能不能回去了’的回答。我大吃一惊，就把它放回到池沼里了。”老婆听了，很高兴地说“你做了一件大好事”！

自那以后，令人不可思议的是他们家万事顺利，赚了很多钱，那可是卖多少鳗鱼都赚不到的钱呢。就这样，他们过上了幸福美满的生活。

注释

- ①「うなぎ」[名词] 鳗鱼。
- ②「びく」[名词] 鱼篓。
- ③「しょう」[动词] “せおう”的转音，背在肩上。
- ④「たまげる」[动词] 吓了一跳，目瞪口呆。
- ⑤「体をくねらせる」扭动身体。
- ⑥「かみさん」[名词] 妻子。
- ⑦「なんにもかも」一切，全部。
- ⑧「まんまんと」[副词] 满满，充满。

语法讲解

(1) 動詞の連用形+てやる

表示说话人（或说话人一方）为身份地位低于自己的人或动植物做事，相当于“为……做（某事）”。

★ ポチに「しろ」という名前を付けてやった。

给狗狗起名叫“小白”。

★ 誕生日に弟に新しい腕時計を買ってやるつもりだ。

打算在弟弟生日时送他一块新手表。

(2) 体言／動詞の終止形+どころではない

表示不是能进行某种事情的状况或场合，相当于“不是……的（时候）”“哪能……”。

★ 新しい家を買ったばかりなので、海外旅行どころではない。

刚买了新房，哪能有钱出国旅游啊。

★ 仕事に追われて、友達と一緒に酒を飲むどころではない。

工作忙，哪有时间和朋友一起喝酒啊。

小知识

鰻

ウナギ科の硬骨魚類。昔から食用にしてきた魚で、料理方法は蒲焼きが一般的である。「精がつき、夏負けしなくなる」といわれ、立秋の前の18日間（夏の土用）の丑の日には、ウナギを食べる習わしがある。この風習は江戸時代にはじまったらしい。学者の平賀源内が、丑の日には「う」のつく食べものを食べようといういい伝えから、知り合いのウナギ屋さんの店に「本日土用丑の日」と書いた紙をはったところ、お店が繁盛したといわれている。

鰻魚

合鰻魚科脊椎鱼类。可食用，一般切片串烤。据说吃了能“长力气，不苦夏”，所以有在立秋前18天的丑日吃鰻鱼的习俗。这一风俗据说起源于江戸时代。据说因为有丑日这天要吃带“う”字的食物传说，所以学者平賀源内就给朋友家的鰻魚店写了一张“本日土用丑の日”的纸张贴在店里，从此，该店生意兴隆。

浦島太郎

むかし、ある海^{うみ}辺^べの村^{むら}に、浦島太郎^{うらしまたろう}という若者^{わかもの}がいました。浦島太郎^{うらしまたろう}は、毎日^{まいにち}、海^{うみ}で魚^{さかな}をとって暮^くらしていました。

あるとき、浜^{はま}へでると、村^{むら}の子^こどもが、よってたかつて^①亀^{かめ}をいじめて^②いました。浦島太郎^{うらしまたろう}は、「こらこら、そんなことをしては、亀^{かめ}がかわいそうだ。はなしてやれ。」といいました。けれども、子^こどもたちは、「おれたちがつかまえたのだから、おれたちのものだ。」といって、ききません。「それじゃあ、その亀^{かめ}を売^うってくれ。」浦島太郎^{うらしまたろう}は、もっていた銭^{ぜに}をぜんぶ子^こどもたちへやって、亀^{かめ}を買^かいとりました。それから亀^{かめ}に「おまえも、こんなところへでてくるから、ひどいめにあうのだ。はやく親^{おや}のところへかえれ。」といって、海^{うみ}にはなしてやりました。

それからしばらくたったある日^ひのこと、浦島太郎^{うらしまたろう}は、いつものように海^{うみ}へでて、釣^つりをしていました。すると、波^{なみ}のあいだから、おおきな亀^{かめ}が顔^{かお}をだしました。亀^{かめ}は、「浦島太郎^{うらしまたろう}さん、わたしは、あなたに助けられた亀^{かめ}です。きょうは、竜宮城^{りゅうぐうじょう}^③の乙姫^{おとひめ}さまのお使^{つか}いで、あなたをおむかえにまいりました。わたしの背^せにのって、目^めをつぶって^④いてください。そして、わたしがいいというまで目^めをあけないでください。」といいました。

浦島太郎^{うらしまたろう}は、いわれたとおり亀^{かめ}の背^せにのって、しっかり目^めをつぶりました。しばらくして、「もう、目^めをあけていいですよ。」というので、目^めをあけてみると、そこは、さんごや宝^{ほう}石^{せき}でつくられたりっぱな御殿^{ごてん}でした。やがて、美しい乙姫^{おとひめ}があらわれて、浦島太郎^{うらしまたろう}さん、ようこそ竜宮城^{りゅうぐうじょう}へおいでくださいました。このあいだ亀^{かめ}を助^{たす}けていただいたお礼^{れい}に、ごちそうをたくさんつくっておまわしていました。どうぞ、めしあがってください。」といいました。